

しづおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想

伊豆の玄関口にふさわしい、市民に開かれた文化の森を創ります

駐車場棟

[普通自動車・大型バス駐車場/健康スポーツ施設]



- ・425台の普通自動車、4台の大型バスが駐車できます
- ・駐車場の屋上(劇場棟と共有)には富士山をみながらのヨガ広場や一周300mのランニングコースをつくります。

文化施設棟



円形劇場 内観イメージ(参考:シェイクスピア・グローブ座劇場)



- ・3本の幹は劇場棟の主な構造体となり、建物全体を支えます。一番大きな幹は円形劇場です。ほか2本の幹は上下移動のエレベーターと階段が入ります。
- ・円形劇場は客席と客席、客席と舞台の距離が近く、臨場感のある劇場タイプです(参考:シェイクスピア・グローブ座劇場)。
- ・円形劇場1階には富士山伊豆地域世界遺産ビジターセンターがあり、森と水の広場からつなづく1階の多目的スペース(みんなの広場)の一部に位置します。
- ・ビジターセンターでは、円形劇場の地下にある溶岩ミュージアムをうえから眺められるカフェも併設し、ゆったりと過ごせます。
- ・大きな幹の屋上は野外劇場となります。ライブやイベントなど使いかたはさまざま。

「しづおか伊豆・文化の森セントラルパーク構想」



住居・商業施設棟



- ・下階は道路沿い傾斜に沿って店舗が並びます。三島散策ルート内の土産やとして最適な場所となります。
- ・森と水の広場と同じレベルには貸しオフィスがあります。
- ・全住戸の南向き間口を広くとることができます。
- ・屋上緑化、屋上菜園があります。

溶岩広場



- ・現在盛土により隠れている約1万年前に富士山から流出した三島溶岩をそのまま現し、自然の状態に復元し、溶岩広場とします。
- ・溢れ出る湧水が森と水の広場から溶岩広場に建物を貫通して流れます。
- ・森と水の広場から緩やかなスロープを下りると、地下の溶岩ミュージアム、溶岩広場ですることができます、三島駅から街中の水辺散策路へ至る新しいルートになります。

森と水の広場



- ・敷地に湧き出している湧水を利用して大きな湧水池をつくります。
- ・線路と広場の間に築山と森をつくります。
- ・水上ステージをつくり、ゆるやかな草地がそのまま客席になります。

■計画概要

[面積表]	
森と水の広場	3,525m ²
広場面積	
文化施設棟	777m ²
B2階	777m ²
・溶岩ミュージアムほか	
B1階	1,145m ²
・倉庫・奈落・ピット	
・搬入口スペースほか	
1階	2,130m ²
・富士山伊豆地域世界遺産ビジターセンター	
・チケット販売所	
・事務所	
・カフェ+ショップ	
・みんなの広場(イベントスペース・情報掲示エリアなど)	
・劇場下部施設(奈落・道具倉庫・機械室)ほか	
2階	3,078m ²
・ホワイエ(クローケ、ワインバー)	
・劇場(客席・ステージ・側舞台)	
・便所ほか	
3階	2,342m ²
・劇場(客席・稽古場・楽屋・事務室)	
・便所ほか	
4階	2,342m ²
・店舗(物販)	
・便所	
・劇場(倉庫)ほか	
5階	1,921m ²
・店舗(レストラン・カフェ・バー)	
・便所ほか	
駐車場棟	
普通車425台+大型バス4台	16,471m ²
B1階-6階	484m ²
・駐車場	
7階	484m ²
・フィットネスクラブ(店舗)	
住居・商業施設棟	
B2階(道路レベル)	1,236m ²
・店舗	
B1階	827m ²
・店舗	
1階	1,193m ²
・店舗・レンタルオフィス	
2-5階	5,892m ²
・共同住宅	
溶岩広場	1,174m ²
ほか外構面積	
・劇場・駐車場棟屋上(屋外劇場+ランニングコースなど)	4,513m ²
・住居棟屋上	1,495m ²
全体敷地面積	12,500m ²
延べ床面積	39,976m ²
外構面積	10,707m ²
建築面積	7,038m ²
【建物規模】	
最高の高さ 29m	
階数	7階建(B2F)
構造	混構造(木造・鉄骨・RC造)
■概算工事費	
概算本体工事	12,000,000,000



しづおか伊豆・文化の森セントラルパーク全景



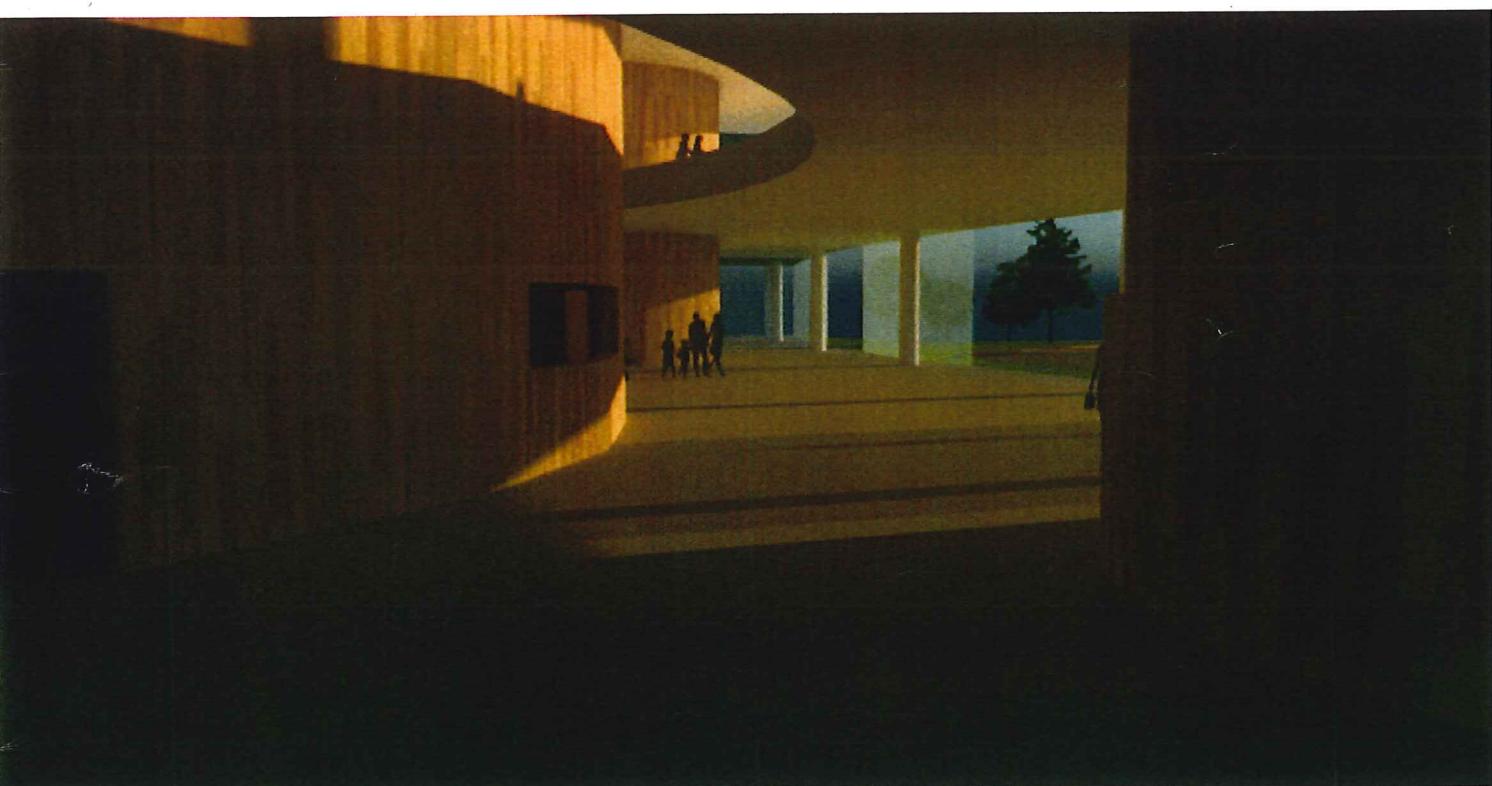
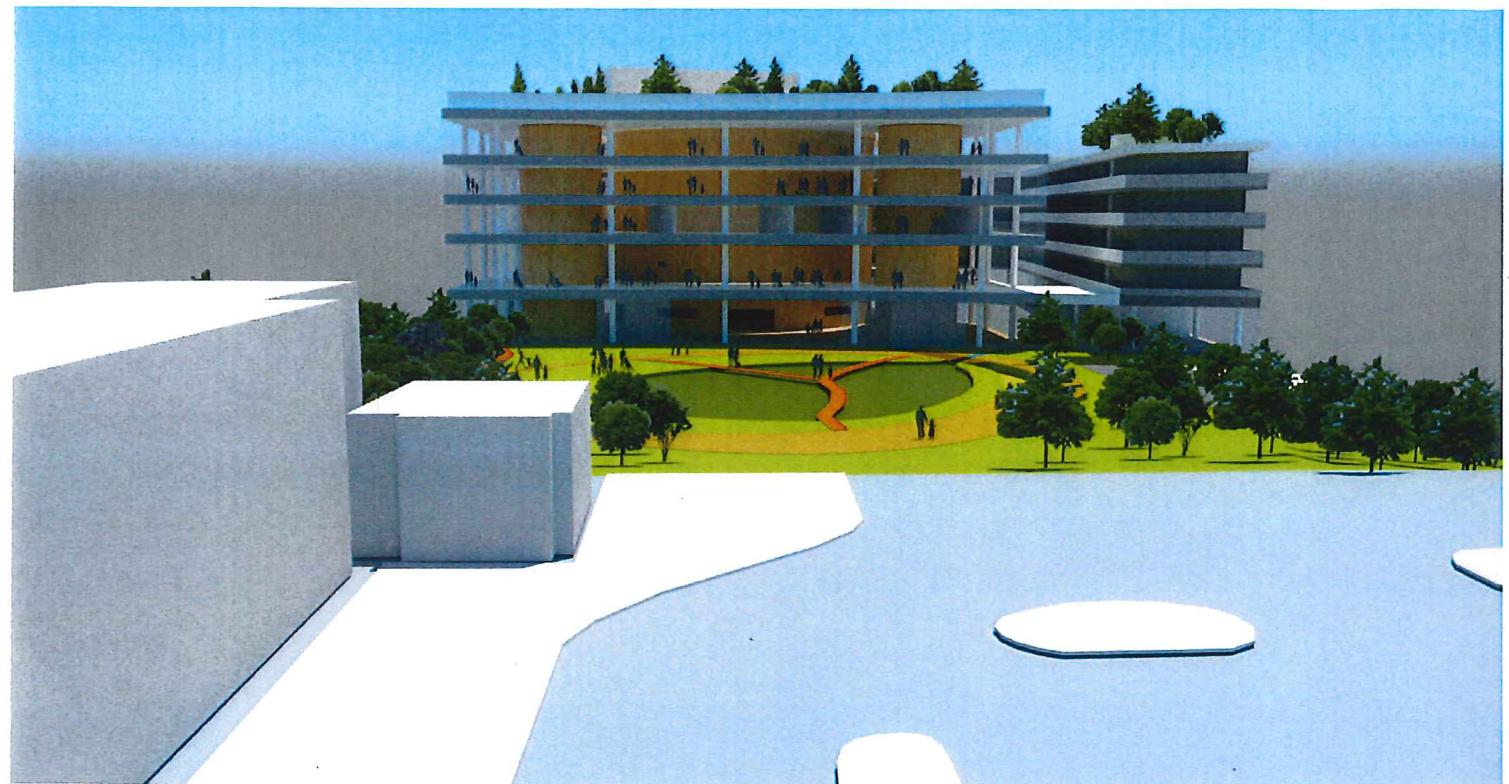
1F みんなの広場・ビジターセンター内観



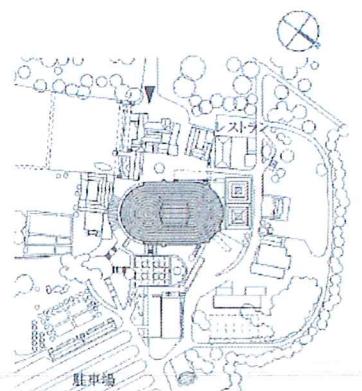
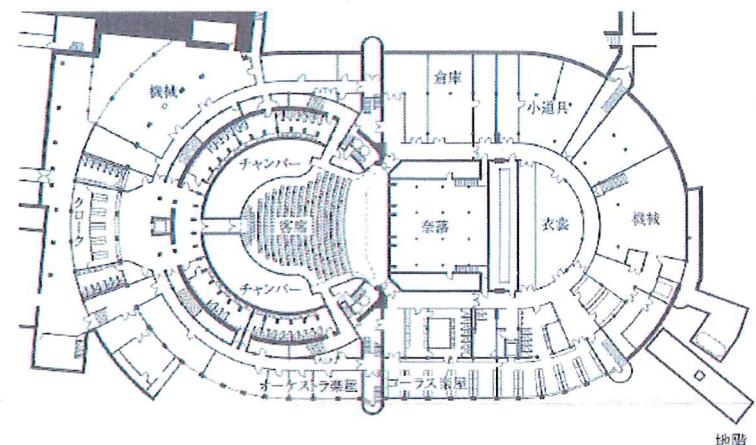
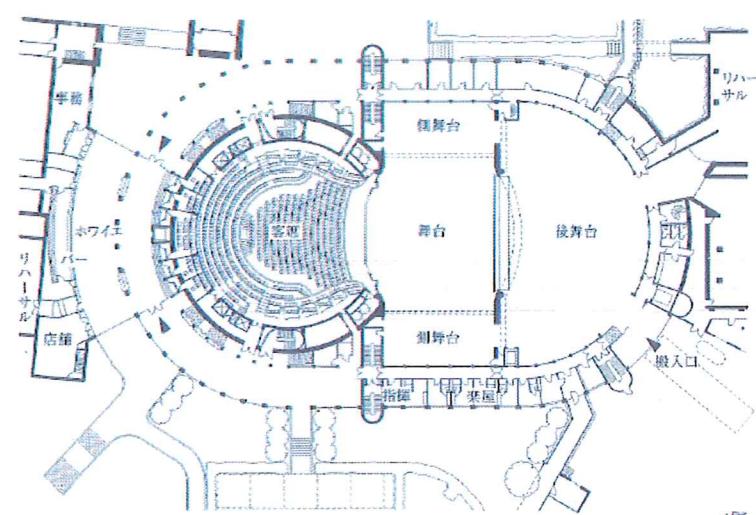
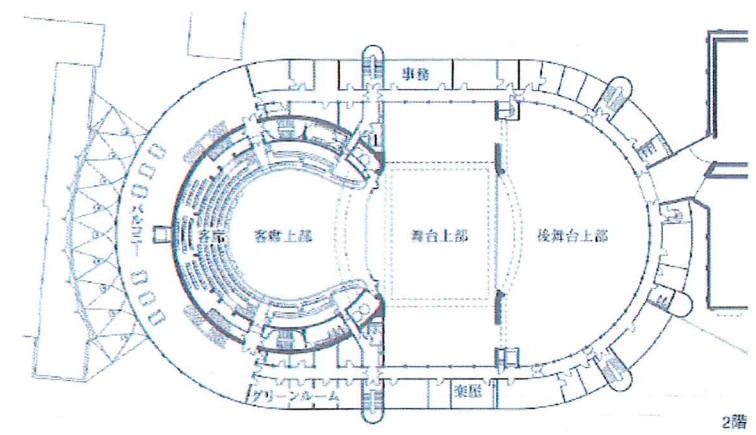
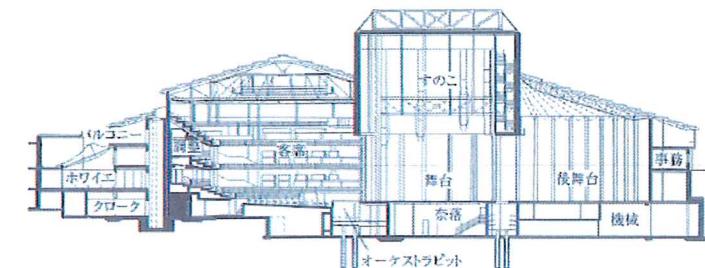
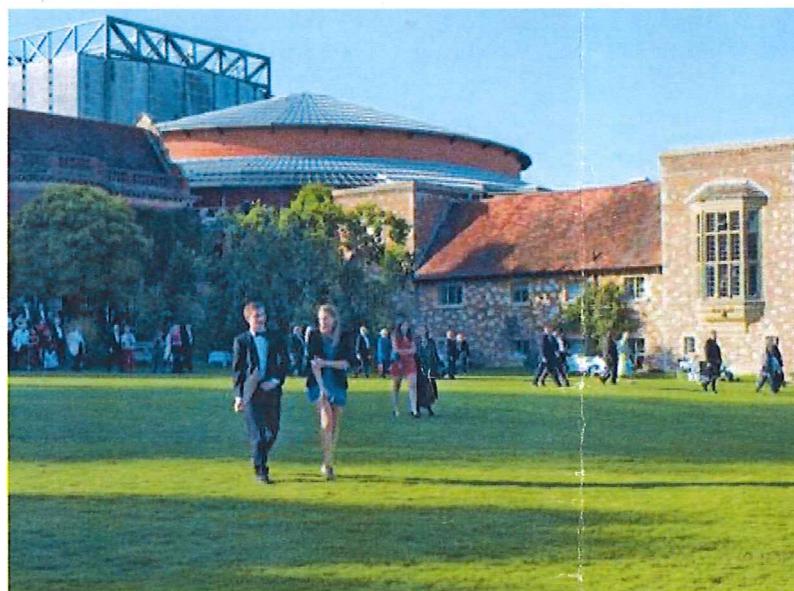
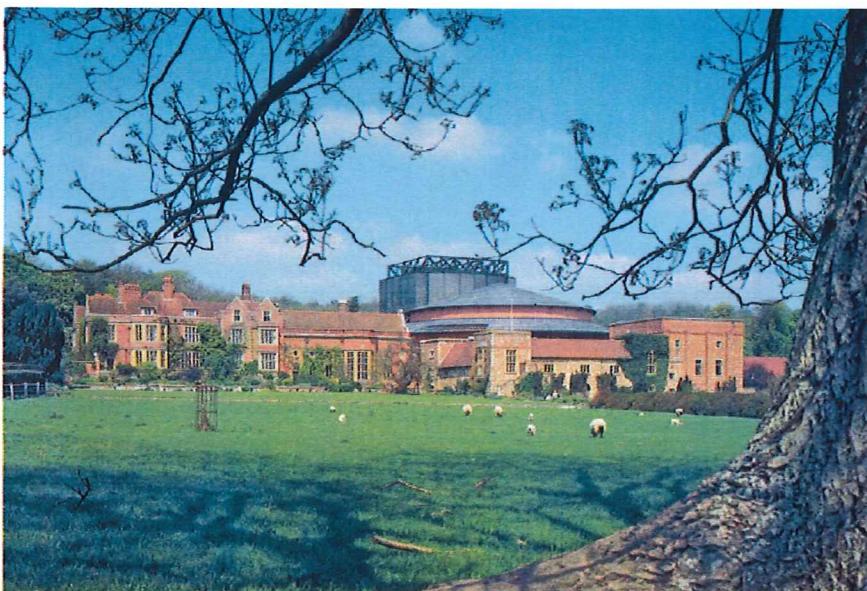
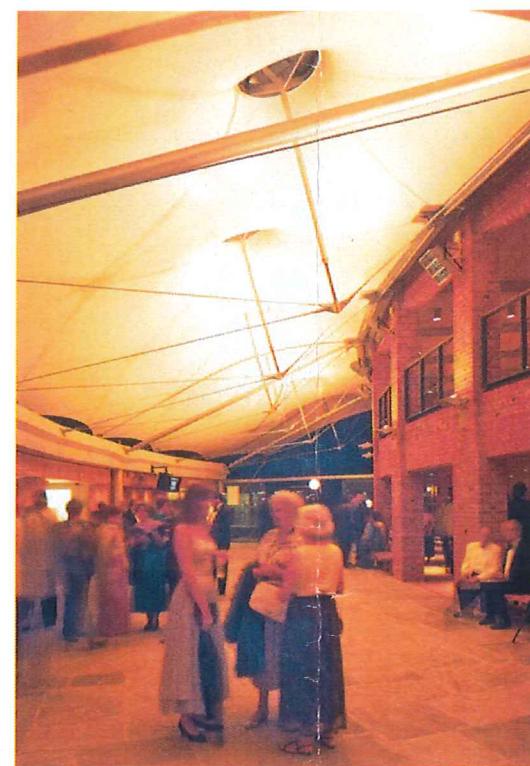
2F 劇場ホワイエ内観



屋上野外劇場外観



グラインドボーン・オペラハウス(1994年) Glyndebourne Opera House



1:5000

グラインドボーン・オペラハウス(Glyndebourne Opera House, East Sussex, イギリス)

グラインドボーン・オペラハウス

・設計: Michael Hopkins & Partners

・建設: 1994年

・客席数: 1,182席(立見: 42)

ロンドンから南に80km、サセクス州の丘陵地帯にあるグラインドボーン音楽祭の本拠地である。1931年、一人の富豪が趣味的に始めた音楽祭が、今では世界有数のオペラ・フェスティバルとして知られるようになった。当初は既存建物を改造した300席程度の施設であったが、1937年(座席数: 600席)・1952年(座席数: 830席)と客席・舞台の改修が行われ、その後1994年全面建替えが行われ現在の姿になった。

建物のボリュームは、周囲への圧迫感をなくすため角を取ったやわらかな形状で、それがレンガ造りや周囲のどかな風景に上手く溶け込んでいる。全体計画においても舞台周りなど大きな壁面になりがちな部分に事務・衣裳スペースや衣装屋といった比較的小さな部屋を配置させることでスケール感を整える工夫がなされている。

客席は、フェスティバル当初のコンセプトに相応しい一体感を高めるようなコンパクトな設計である。観客同士が意識し合える多層バルコニーを持つ伝統的な馬蹄型の形状を選択し、ともすれば分断されがちな1階席と2階バルコニー席間に中2階席を設け開放感を連続させている。さらに、左右のバルコニー席の1列目と2列目は大きな段差が取られ、舞台へのサイトラインを確保している。音響面でも、2列目の座席の後に大きな板状の壁を設け前方からの反射音を確保したり、吸音面と反射面をバランスよく配置するなど細部に至るまで配慮が行き届いている。

行政からの補助を受けず、本拠地での公演とツアーコンサートにより経営を成立させている。フェスティバル劇場としてだけでなく、地域劇場としての在り方を示す劇場の好例である。